



## 想いよ届け



オフィスPrima 代表  
フリーランサー  
ビジネスマナー講師

とおる ちほ  
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メ~テレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。

一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話応対などの研修講師を務め、人財育成に取り組んでいる。

「ウクライナの栄光も自由もいまだ滅びず 若き兄弟たちよ、我らに運命はいまだ微笑むだろう 我らが敵は日の前の露のごとく亡びるだろう 兄弟たちよ、我らは我らの地を治めよう」『ウクライナ国歌』

この歌詞は、今まさに起こっていることを表しているようです。この国は、創設の時から苦難の連続であったのでしょうか。

ロシアによるウクライナへの侵攻から1年余り。この惨劇が、これほどまでに長期化するとは誰が想像したでしょうか。昨年6月に揖斐川町で、9月には瑞穂市で、ウクライナを支援するチャリティーコンサートが開催されました。コンサートは、黙祷の後、ウクライナ国歌から始まり、クラシックや映画音楽、文部省唱歌など、ピアノ、ヴァイオリン、チェロの優しく艶やかな調べがホールに響きました。

チェロを担当したのは、ウクライナ国立歌劇場のチェリストであるテチヤナ・ラブロワさん母娘。テチヤナさんは戦禍を逃れ日本に避難したのですが、楽器を持って来られず演奏活動もままならない状況でした。その時、チェロを貸与したのが、カレーハウスCoCo壱番屋創業者で宗次ホールのオーナーである宗次徳二さんでした。祖国を想い演奏する二人の姿には、胸に迫るものがありました。

そして、この活動の先駆けとなったのは、金沢に住むリトアニア人のヴァイオリニスト、ジドレ・オヴシウカイテさんでした。リトアニアは1990年に独立回復宣言をしましたが、旧ソ連に併合されてきた歴史があります。ジドレさんは、昨年2月24日にウクライナへの侵攻が起きるとすぐに支援の呼びかけを行い、それに呼応した40人余りの演奏家と共に、石川県立音楽堂でチャリティーコンサートを開催。その後、名古屋や岐阜での開催につながり、今年2月には、美濃加茂市でもコンサートが開かれ、支援の輪が広がりつつあります。岐阜では、NPO法人岐阜福祉事業支援友の会が主催し、私も司会のお手伝いをしました。

収益金は、在日ウクライナ大使館や、ウクライナの女性たちを人道的に支援しているリトアニアの団体に送られ、移動診療車、抗生物質、衛生用品などに役立てられています。「第二次世界大戦中、リトアニアに駐在し、多くのユダヤ人にビザを発給して命を救った外交官の杉原千畝氏のように、直接人の命を救うことはできないかもしれませんが、気持ちは同じです。」とジドレさん。

ウクライナの人たちのために何かしたい、という国境や民族を越えた一人一人の善意に動かされ始まったコンサート。音楽には、困難に直面した時にも私たちを勇気づける力があります。ウクライナ国旗の青色は空を、黄色は豊かに実る小麦を表しているとも言われています。1日でも早く、その旗が象徴するような平和と安寧が訪れるよう願ってやみません。